

学位被授与者氏名	柏木 礼子
論文題目	ケアプランにおけるインフォーマル・サービスの活用について －介護支援専門員の調査に基づいて－
論文審査結果の要旨	<p>介護保険制度で利用するサービス内容や財源を決定するケアプランにインフォーマル・サービスを組み合わせる際の阻害要因を明らかにする試みは評価できるが、以下のような点が不十分である。</p> <p>先行研究や類似の研究の視点や得られた結果などの検討が不十分である。</p> <p>インフォーマル・サービスには家族も入るのであるが、介護サービスは家族の介護負担軽減の意図もあり、家族をインフォーマル・サービスとしてケアプランに組み込むことはこの意図に反しているに見える。しかし、ケアプランに組み合わせているインフォーマル・サービスの9割が家族であるという調査結果を得ているが、この点に論及されていない。</p> <p>また、仮説とした介護支援専門員の所属する事業所や実務経験年数などの属性別の検討がなされていない点や、情報の不足がインフォーマル・サービスを組み合わせるための阻害要因という結果に関連する、情報不足に関する他の研究の検討などが不十分である。</p> <p>今後、介護支援専門員の実務経験年数や属する事業所、基礎職の違いから見たケアプランの作成の違いを検討することや、インフォーマル・サービスにも民生委員、福祉協力員、友愛訪問などと近隣住民では安定性、継続性、親密度等の質が異なることを考慮して、ケアプランの普遍性の確保について検討することが期待される。</p> <p>平成24年8月29日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館都市政策研究所会議室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>